2Fa－9

衣料サイズの適合性に関する意識調査

○長田美智子　　永井房子
（相模女子大学　）

（目的）既製衣料品は今日では我々の日常の衣生活には欠くことの出来ないものである。日本人の体格は近年大きく変化しており、既製衣料品の基本であるサイズについて様々な問題が生じている。そこで我々は既製衣料品に対する消費者の購買行動及び着用適合感についてアンケート調査を行い、サイズの面から既製衣料品の問題点について検討を行った。

（方法）調査対象：本校女子学生及びその両親（合計９５８名）　実施時期：１９９７年９月～１０月　調査方法：質問紙面接調査法。　調査項目：着用外衣の服種、購入時重視事項、衣服の素材、サイズの適、不適、補正の有無及びその部位、年齢、身長、体重。　分析方法：単純集計、クロス集計

（結果）購入した衣服が体に合っている者は、女子学生３２．７％、母親３１．９％、父親３７．２％であった。３割以上の者が既製衣料のサイズに満足している。不適合部分があるが補正せずに着ている者は、女子学生４９．２％、母親３８．２％、父親２３．７％であり、両者を合わせると女子学生８１．９％、母親７０．１％、父親６０．９％が既製衣料品をそのまま利用している。補正して着用している者は女子学生１７．１％、母親２８．１％、父親２７．４％であり、親世代は女子学生に比べて補正する者の割合が高い。また、オーダーを利用する者は女子学生及び母親にはいないが、父親の１０．７％の者が利用していた。